

HANDY CAD MARK II

ハンディーキャドマークツー



設計者の 新たなる発想をサポート

2次元設計・製図を「もっと簡単に、もっと効率よく」と、設計者の要求は日々進化しています。

それはビギナーからプロユースまで様々な分野に共通して言えることです。

HandyCAD Mark IIは、長年培(つちか)われたノウハウと洗練されたユーザビリティで設計者を日々のストレスから解放し、
 設計者の新たなる発想をサポートしていきます。

▶ 業界最高水準を誇るダイレクトコンバータを搭載

▶ 統一されたコマンドプロパティで可読性がアップ

▶ 複数の図面もストレス無く安心操作

▶ Office アプリケーションとのシームレスな連携を実現

▶ 直感的なマウスオペレーションで操作性がアップ

▶ テクニカルな分野もアドオン機構でソリューション解決

設計者の「もっと！」を支援する 専門ソフトウェアとして。

テクノロジーの進化や顧客のニーズの変化…。
 企業を取り巻く環境は日々、そのスピードを加速させ変化を重ねながら、私たち製造業にも変革を求めています。このような流れの中で、HandyCAD Mark IIも設計者のニーズに応えるべく、長年培われたノウハウと新技術の融合で、よりいっそう支持されるソフトとして成長し続けます。お客様の競争力強化、生産工程の改善、高品質化、コスト削減、納期短縮を徹底サポート。より良い設計環境のご提供をお約束します。

多彩なアプリケーションとの組み合わせは自由。 ニーズに合わせたソリューション。

HandyCAD Mark IIと連動するソフトウェアは組み合わせが自由です。
 現場の視点で開発されたことにより、設計者は必要なソフトウェアだけを導入し、それぞれに合わせたパッケージングを実現します。各ソフトウェアの性能もさることながら、高い拡張性により高品質化と効率性、そして導入コストに対してなど、設計者支援を様々な角度から行います。

すべては設計者を第一に考える。

CADの現場から求められる最重要課題。それは設計者が思い描くイメージを、何の躊躇もなく表現できる支援ソフトの存在です。HandyCAD Mark IIは設計、製図を「もっと簡単に、もっと効率よく、そしてもっと自由に」といった設計者のニーズに応え、負担の軽減に一役買っています。

それでも「困った」というお客様のために。

設計者のニーズは常に複雑化し、単に高性能化しただけのソフトウェアではなく、「困った時に何をしてくれるのか？」が差別化へとつながります。私もはそういったお客様の「困った」を喜んで解決するため、丁寧で分かりやすいアドバイス、レスポンス第一のサポート体制をもって常にお客様のことを考えます。お客様の「どうしよう…」が HandyCAD Mark IIを進化させると言っても過言ではありません。

HANDY CAD MARK II

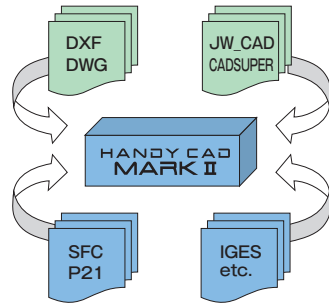
[設計]

[加工]

[確認]

図面資源の有効活用

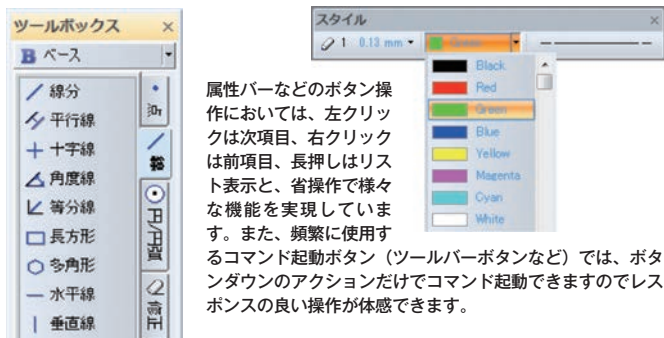
CADの世界で図面とは、設計者の知識と技術の結集であり貴重な資産でもあります。HandyCAD Mark IIは20種類を超えるダイレクトコンバータを標準搭載していますので、既存の図面資源を有効に活用することができます。特に、業界標準と位置づけられるDXF、DWGフォーマットに関しては、最新のバージョンから粗悪なフォーマットまで、幅広く対応しており、今まで困難とされていたレイアウト空間や、一般的にトラブルが多いとされる寸法線に関する、業界最高水準の変換精度を誇っています。また、建築土木業界で標準化が進められているSXFフォーマットにもいち早く対応しています。他にも、フリーソフトのJW_CAD やアンドール社のCADSUPER などについても積極的にサポートしていますので、既存の図面資源が無駄になる心配はありません。



大量の図面を一括して印刷したり、他フォーマットへ変換したりと、バッチの処理が要求される場面においても HandyCAD Mark IIは十分威力を発揮します。

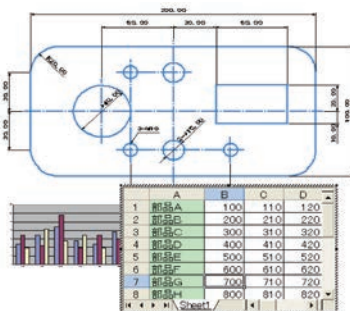
洗練されたマウス操作

マウス操作において認識したい座標や要素をやさしくナビゲートしてくれる、そんな心配りを体感できるのが HandyCAD Mark IIです。コマンドによっては座標と要素の同時受付が可能なので、従来のCADのような切り替え操作は不要です。また、認識座標（端点、交点など）別に表示マーカータイプを指定したり、ツールチップの表示ON/OFFなど、きめ細かな設定でさらに使いやすくなります。マウスホイールに関する、回転はズーム、ドラッグは移動、ダブルクリックは原因と、当たり前と思われる操作を当たり前のように実現しています。



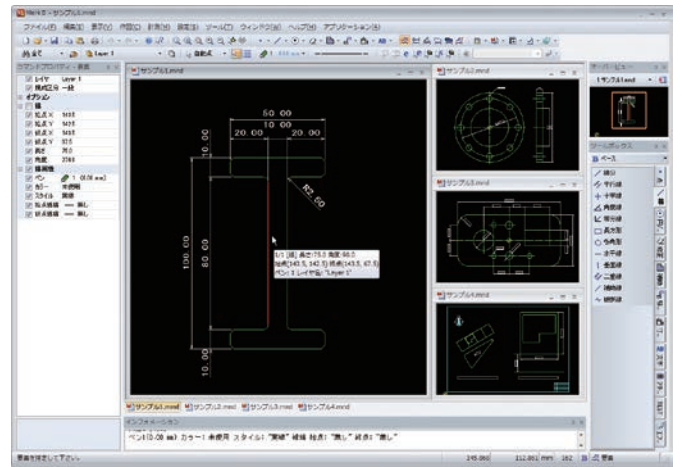
Officeアプリケーションとの親和性

Officeアプリケーションと連動させる事により、ワンランク上のドキュメント作成が可能です。図面にExcelやWordなどのオブジェクトを貼り付けて編集する事も当然可能ですが、貼り付けたオブジェクトをCAD図形に変換する事ができますので、CADとしての編集や他フォーマットへ変換する場面などで威力を発揮します。逆に、ExcelやWordなどに HandyCAD Mark IIの図面を貼り付け、ダイレクトに編集する事もできます。



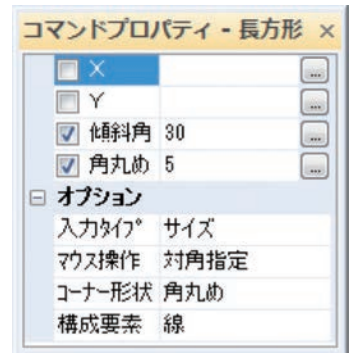
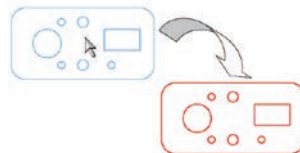
PC資源への配慮

設計者の思考は同時に複数の図面を処理できますし、当然ながらそれに耐え得るCADでなくてはなりません。HandyCAD Mark IIはPCの資源が許す限り複数の図面を同時に編集することが可能となっており、3次元データなどのように大量の微小線分で構成された図面であってもストレス無く操作できます。また、メモリの消費量に関する、有限資源である実メモリの使用を極力抑えるテクノロジーを使用していますので、通常業務においてメモリ不足に陥る心配はありません。万が一、作業途中にトラブルが発生（OSのハングアップなど）したとしても、図面の保護機能が備わっていますので、復旧作業は容易に行えます。



フレキシブルなコマンド操作

コマンドを正常に動作させるためには、適切なパラメータを指示しなければなりません。ダイアログのようにコマンド毎に異なるユーザーインターフェースでは設計者の思考を妨げてしまいかねません。HandyCAD Mark IIはコマンドプロパティと称する共通インターフェースの採用により、この問題を解決しています。コマンドに必要なパラメータは一覧で表示され、各パラメータは随時入力を受け付けているので、フレキシブルなオペレーションが可能となっています。また、各パラメータには参照ボタンが付いているので、必要な時には何時でもCAD要素から情報を参照できます。



ループ認識オペレーションにおいても、閉じた領域をワンクリックで自動認識する機能や、矩形内の複数領域を一括認識する機能など、今までに無い軽快なオペレーションを実現しています。

拡張性

HandyCAD Mark IIはアドオン形式で機能を追加できますので、建築・土木分野から設計・製造分野まで幅広いソリューション展開が可能となっています。また、ユーザーカスタマイズ用として汎用性のあるVBスクリプトを用意していますので、小規模なカスタマイズなどに非常に適しています。